

第6回加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキンググループ 議事要旨

1 日時：2025年2月10日（月）午後2時から4時30分

2 場所：加茂市役所3階 301・302会議室

3 出席者（敬称略）

堀内大祐（加茂商工会議所 まちづくり委員会 委員）
涌井 陽（加茂市商店街協同組合（涌井金太郎商店））
萩野正和（株式会社 connel 代表取締役）
高澤 浩（第四北越銀行 加茂支店 支店長）
山口 翼（第四北越銀行 加茂支店 主任）
小林 裕（加茂信用金庫 本店営業部 部長）
夏目一寿（加茂信用金庫 総合企画部 課長）
武者正人（NST 新潟総合テレビ 情報制作本部デジタルマーケティング部 部長）
齋藤祐樹（加茂市 政策推進課 課長）
中浜孝昭（新潟県三条地域振興局 地域整備部 計画専門員（総括））
落合 純（新潟経営大学 地域活性化研究所 所長）
青山 准（NTT 東日本 新潟支店 地域基盤ビジネス課長）

オブザーバー

阿部 駿（加茂市観光協会 事務局長）
鈴木智也（加茂市観光協会 事務局）
鈴木宏和（加茂市商工観光課観光係 係長）
小野慎太郎（加茂市建設課都市計画係 課長補佐）

事務局：加茂市政策推進課、(株)オリエンタルコンサルタンツ

4 議事

(1) 開会

(2) 令和7年度から実施する具体的な取組み検討

事務局より、資料3（前半）をもとに、前回の意見交換の結果及びグループワークの進め方について説明を行った。その後、情報発信グループ、担い手育成グループに分かれて意見交換を行い、各グループの検討結果を発表した。

1) 情報発信グループ

【進行】加茂のまちなかコンシェルジュについては、前回整理したスケジュールで実施していくことを確認した。本日は、デジタルサイネージ、情報発信について議論したい。

【WG メンバー】当行のサービスでデジタルサイネージによるコマースサービスがある。当行は県内で150支店くらいあり、1枠15秒で、1日に何回も流すことができる。お手元の資料に詳細を記載している。これを情報発信のツールとして、どういう活用ができるかについて今回議論した。具体的に何をするというスケジュール感までは議論していないが、どこをターゲットにしていくのか、エリアをどうするのか、つまり新潟県全域なのか、中越エリアなのかなどを議論した。エリアに関しては、利用料の問題も絡んでくる。また、何に絞って紹介していくのかも重要である。15秒の短い枠の中で、どういうものを宣伝していくのか、伝えていくのか。また、映像を見た人にしっかりと伝わるのか、理解できるのかということも今後、議論の余地がある。そのようなことを含めて、デジタルサイネージというツールが最適なのかどうかを検証していく必要がある。こうしたことを皆さんと共有させていただいた。

また、なんとも言えない部分の話になるが、エリアプラットフォームがデジタルサイネージ枠を押さえて、その枠の中で色々な情報が発信できないかという議論をした。これができるが一番の理想であるが、これについては我々も確認が必要で、現時点では確定的なことを申し上げられない。そういう話も共有させていただいた。

【WG メンバー】御存じでない方もいるかもしれないが、以前「加茂本」という加茂市の事業者さんに焦点を当てて、その人の人となりを紹介する本があった。今回、それをさらに深掘りしたものをウェブサイト上でやっというと考えている。当会としては、市外の方に興味を持ってもらえそうな店舗を中心に紹介するイメージである。サイトに記事をアップするだけでは、見てくださる方も増えないので、SNS、特にショート動画を使ってリーチを増やし、そこを導線にウェブメディアで詳しいところを見ていただく仕組みを考えている。スケジュールとしては、現実的に考えて、令和7年6月くらいからの着手を考えている。更新の頻度は検討中だが、基本的には通年でやっていくイメージである。

続いて2つ目は、まだ実施時期が確定していないが、検討しているものがある。外部の方を講師として招いて、市民向けに動画の作り方や企画の作り方を教える講座を開催する内容である。

3つ目は体験メニューで、観光客向けの情報発信である。現状は旅行会社向けにB to Bの形で、紙すきや酒蔵見学、タンスの工場見学など、そういったものを旅行会社さんの要望に応じてカスタマイズし、一緒にパッケージを作ることをやっている。今後は、当会から直接観光客向けに、つまりB to Cの形で、体験ツアーの旅行商品化をやっというと考えている。単価感をどうするのかなどを検討、調整してリリースする流れ

になると思うが、これについては、現時点でスケジュールを作るというよりも、取り組みそうなところから進めていくやり方を考えている。

2) 担い手育成グループ

【進行】まち・みず・みどりのモニターツアーについては、前回、実施時期が見えてきたところがあったので、そこに向かって誰と協力するのか、それをした先に何を指すべきなのかを改めて議論した。モニターツアーは冬場を除く、春・夏・秋を見据えて、加茂山を通じた加茂の魅力を発信することと、さらに何を指すのかを議論した。ガイドを育成したいのか、ファンをつくりたいのかである。今日の議論では、加茂市のファンを増やすという方向が、目指したいところであるとの再確認をした。

次にファンを作っていく中で、どうすれば、ツアーが参加したくなるものになるのかを議論した。体験の $+\alpha$ として何があるのかという議論である。過去に加茂山に特化した植物図鑑があって、それが何年も更新されていないということで、今回のツアーを通じて、また参加者の協力のもとで、植物図鑑の最新版を作るとよいとの話になった。それが、参加する意義につながるのではないかと、ファン化につながるのではないかとということである。

これらを踏まえ、春山ハイキングの時期については、ガイド役の候補がいるので、そういった方々に我々の目指したいところを説明して共有する。また、夏は市民大学講座の機会を活用して、座学とフィールドのツアーを組んだ動きができるよう調整に入っていく。

また、モニターツアーの効果測定としては、参加された方の意向把握を行う。また、実施した内容の映像を記録する。有志の中で協力先も見えてきた。

次に商店街の新規出店者支援の取組みである。前回は、各主体が持っている空き店舗情報をうまくつなぎ合わせていくと、借りたい人に貸せるところまでいくのではないかとということ議論がスタートした。しかし、改めて空き店舗情報のデータを見ると、店舗面積など必要な情報が網羅されていないことがわかり、現在の空き店舗情報を一元化しても、すぐに貸せる、貸せないについて、判断できる状況になっていないことを共有した。では、不動産事業者が持っているような店舗カルテのレベルまでデータの精度を高めるのかというと、新規出店支援の話と遠くなってしまうため、改めて考え直し、出店希望者の情報を一元化する方向で議論した。

そこで、出店希望者の情報として何があるのかを議論した。例えば、過年度実施された創業支援講座の参加者のデータがある。また、創業塾という取組みが年5回あり、20名程度の参加があった。こういったところが、出店希望者の情報源になるので、リスト化、カタログ化すると、市内の不動産業者とのマッチングがうまくできるかもしれないという話になった。さらに、こうした取組みに合わせて開業講座、例えば今後商店街で新しい店舗経営を始める人にメンターを付けるような取組をすることで、商店街への新規出店を促進できるという議論になった。この取組みの主体としては、創業塾などを商

工会議所さんで実施しているので、商工会議所さん主体の動きになればよいとの話になった。

【WG メンバー】相談のしやすさと情報の集めやすさの観点では、商工会議所が主体になることでスタートしやすいと思われる。

3) 総評

【ファシリテーター】情報発信グループで言えば、これまで、加茂のまちの魅力の情報発信が不十分であったという認識が背景にあったと思う。とにかく情報発信すれば目的を達することができる。その中で、サイネージの話や情報発信の講座をやっていただけという提案があった。具体的な時期や発信する情報の内容は、まだ決められないところがあると思うが、「こういう時であれば、ここのサイネージが使える」ということを増やしていく必要がある。特定の団体の情報発信に頼ったり、サイネージの割引をしてくれたりすることを待つだけでは何も動かない。何かしら外の目に触れる動きをすることが大切であると。一つでも二つでも外に情報発信した実績ができるが良い。

担い手グループの方は、モニターツアーのキーパーソンが見えているということで、仕掛け側の仕組みづくりにおいてもご協力を得ることができれば、実現しそうだと思った。今日の議論の中で植物図鑑を作るというアイデアも出た。参加する側のモチベーションを高める仕掛けについても議論されているので、実際やっていただければと思う。どういう展開になるかはわからないが、当初の予想ほど盛り上がらないこともあるかもしれないが、それはそれで良いと思う。

商店街の新規出店支援については、出店希望者の方に焦点をあてる方向に変えたということで、そういう方向であれば実現しそうだと感じた。出店したい人をたくさん集めるというよりは、親身になって一人二人の出店希望者の店を実現することから始めて、「我々のタスクチームが、あのお店を出したんだ」という状況を作った方が良いと思う。そうすれば、「あのタスクチームにお願いしよう」という流れが生れてくると思う。主体としては、ぜひ商工会議所さんをお願いしたい。

以上、ありがとうございます。

(3) 令和7年度以降の体制等について

事務局より、資料3（後半）をもとに説明を行った。

【ファシリテーター】令和7年度の体制について補足したい。カタカナで分かりづらかったかもしれないが、まずコーディネーションミーティングについてである。今年度、皆さんで未来ビジョンを作って、加茂のまちがどんな未来になっていくと良いのかという姿をまとめた。ただし、未来ビジョンを具体的に進める中で、微修正することや、大きくものを見る目線で改めて議論することが出てくると思う。その時にはぜひ皆さんから

知恵、お時間を拝借して考えていきたい。このように、全体を見る会議が、コーディネーションミーティングである。

次にインキュベーションミーティングについてである。まさに今日のこの場がインキュベーションミーティングである。今日の議論は、全体の方向性について議論したのではなく、ある意味、担い手として動かされる存在、つまりプレイヤー目線の議論だったと思う。これまでは、ワーキングメンバーとプレイヤーが同一人物だったが、いずれ若いグループが現れて、「こんなことを未来ビジョン実現に沿う形でやろうと思っている」、あるいは「やっている」ということを提案してくると思う。そして、皆さんに対して相談したり、一緒にやっていきたいという投げかけがあったりするなど、そういう話になっていくと思う。

このように、新しい人が、参加する可能性もあることから、コーディネーションミーティングとインキュベーションミーティングの二段構成で議論の場を用意するということである。

(4) 事務連絡

【事務局】本日、議論した内容は事務局でとりまとめ、3月18日の全体会の前に皆さまと共有したい。なお、全体会に向けた資料の作成にあたっては、本日の議論をそのまま整理するのではなく、一部、もう少し深掘りする場合がある。その際は、改めて取組み主体の方に相談する。

(5) 閉会

以 上